

第38回 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル 結果レポート

報告：東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル事務局

- 開催：2022年11月13日(日)
- 会場：神奈川県横浜・新山下 RE:JOURNAL (釣り場は、東京湾一帯)
- 主催：東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル実行委員会
- 後援：JGFA
- ルール：IGFAルール・オールタグ&リリース・バーブレスフック採用
- 参加チーム：14チーム
- 参加選手53名 うち1チーム3名キャンセル

1.《38回フェスティバル開催！》：コロナウイルス感染拡大に伴い、2年間開催を見合わせていましたが、3年ぶりに当フェスティバルを開催いたしました！

装いを新たにオープンした、横浜・新山下 RE:JOURNALさんをお借りして、13チーム総勢50名のシーバスアングラーが集まってくれました！

久々にお互い顔を合わせ、充実した一日を過ごせるよう、シーバスに遊んでもらいます！



選手はシーバスガイド船（遊漁船）やオーナーボートに乗り込み参加されています。
スタートフィッシングは、本部船のスタートコールとともにスタート！

2.《スケールとタグ&リリース》：シーバスの又長を計測するためのスケールが、当フェスティバルを後援するJGFA様より各チームへ配布されました。シーバスの又長を計測し、素早くタグを打ち、リリースします。



このフェスティバルの最大の特徴であるオールタグ&リリースシステム。
いつかまた再会できることを願って・・・今回、119尾シーバスがタグ&リリースされました。

3.《今回の大物は・・・》

今回の最大魚は神奈川県京浜運河内で釣り上げた 又長 74.0 cm

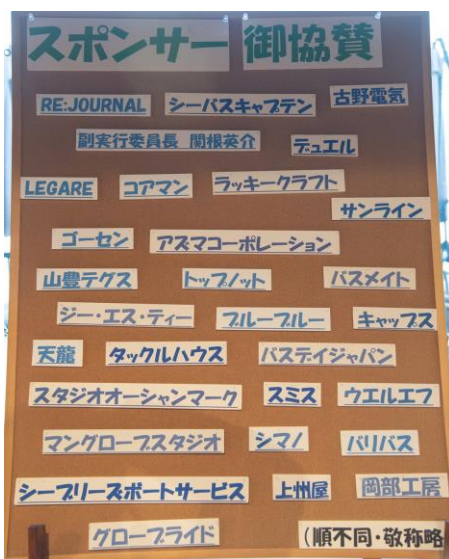
アングラーは EDOBAKU 小松 裕太さん！ミノークャスティングで仕留めた1匹でした！



4.《表彰パーティー》



改装されて新たにオープンされた RE:JOURNAL さんでの表彰パーティー。コロナ感染対策も施し、短い時間ではありましたが、皆さん高級感溢れる店内で、おいしい食事と共に歓談を楽しんでいらっしゃいました。



大変多くの各社様よりご協賛をいただきありがとうございました。
各賞の副賞並びに参加者全員に参加賞を渡すことができました。
ご協賛していただいた企業の方々ありがとうございました。

5.《表彰結果》 各賞の結果発表



まずは、60歳以上のシニア賞

今回激戦を制したのは・・・

シニア大物賞1位 Blue Water

小川 雄二さん 又長 64.0cm

シーバスフィッシングを昔から支えてきた方たちへの感謝の賞でもあります。

シニアといっても大ベテランばかり！

そして毎年激戦でもあります。

続いて当日配布された25本のタグをすべて打ち切ったチームに贈られるフルタグ賞 今回は3チームありました。
アランビック FC (左) 横ビル (B) + アッパーズ (B) (中央) レッドヘッダーズ (B) (右)
大変多くのシーバスに出会えたようでした！



こちらはレディース大物賞

今回は4名の女性が参加されました。

レディース大物賞1位 横浜ビルフィッシュクラブ (A)

佐々木 愛さん 又長 71.0cm

今年は4名の釣りガールがいらっしやいましたが、来年もさらに多くの参加お待ちしております！



そして、18歳以下に贈られるジュニア大物賞

将来を担うジュニアアングラーこれからも釣りを楽しんでくださいね～

ジュニア大物賞 1位 アランビック FC

市原 航さん 叉長 58.0cm



最後にチーム賞の発表です！

38th 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル チーム賞 1位 (チーム5尾の叉長合計) は

叉長 74.0cm 69.5cm 64.5cm 57.0 cm 56.0 cm 合計 321 ポイントをマークした・・・

EDOBAKU (上)

2位は 317.5 ポイント 横浜ビルフィッシュクラブ (A) (左下)

3位は 312 ポイント 横ビル (B) +アッパーズ (B) (右下) でした



《次年度に向けて・・・》

「東京ベイ・シーバス・ゲーム・フェスティバル」は今回で38年目を迎えることができました。

コロナウイルス感染拡大により2年ほど開催を見合わせていましたが、再開することができ、多くのアングラーが元気に顔を合わし、会場も盛り上がり楽しんでいただけました。

38年間、当フェスティバルを開催でき、そして事故もなく、継続できているのは、ボートのキャプテン並びに、参加選手ひとりひとりの非常にレベルの高いスキルのおかげです。これもひとえに多くの参加されている皆様・企業様のご理解とご支援の賜物と心から感謝いたします。

近年、シーバスゲームは日本各地で確立されつつあり、また釣具の発展やアングラーの新しい発想により、各地で様々なスタイルやパターンが生まれてきました。日本の代表的な釣りの1つとして世界に誇れるゲームフィッシングといっても過言ではないかと思われまます。

シーバスを釣る事だけではなく、次の世代につなげる為に、タグ&リリースやキャッチ&リリース、バーブレスフックの提唱など以前から訴えてまいりました。これからも初心を忘れず、東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバルは更なるシーバスフィッシングの発展を願い、このシステムを採用し、東京湾のスズキの資源を末永く維持して、素晴らしい釣りをいつまでも続けていきたいと思ひます。

またシーバスフィッシングの発展のために、シーバスを大切にしていけることはもちろん、釣りや海上でのマナーを伝えていき、次世代に残していきたいと思ひますので、ご支援・ご協力並びにご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

次年度の「39th 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル」会場にて、また皆さんにお会いできる事をスタッフ一同楽しみにしております。

まだまだコロナウイルス感染終息の出口は見られませんが、困難に立ち向かい次年度を迎えたいと思ひます。

今年度も選手の皆様 ガイドボートのキャプテンの皆様 そしてご支援していただいた企業様 誠にありがとうございました。

東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル 実行委員長 福永 雄海